

押出成形の技術に自信 樹脂が持つ可能性の追求で新分野開拓

三協化成株式会社

代表取締役社長

浦谷 昌克 氏



設立50年を迎えられました。これまでの沿革をお伺いします。

アルミサッシ向け樹脂部品の製造を目的に、旧三協アルミニウム工業(株)、旧立山アルミニウム工業(株)(現三協立山(株))と、日本ゼオン(株)の3社合併で1975年3月に設立されました。当初は窓ガラスを押さえるゴムのような柔らかい樹脂のパッキン(ガスケット)など軟質樹脂押出成形材を主力とし、射

出成形でストッパーなどの小さな部品も作ってきました。

その後、硬質樹脂押出成形で塩化ビニールのバルコニーデッキやフェンスなどエクステリア用品の成形材も手掛け、2005年からアルミ樹脂複合サッシ向け樹脂成形材の生産を始めました。断熱性能を高めるリフォーム用の後付け樹脂窓なども拡大し、アルミ樹脂複合サッシ向け成形材は現在、売上げの約7

割を占める主力となっています。ホームページ内にソリューションサイト「押出成形ラボ」を開設し、映像や画像を交えて自社の技術や製品を紹介しております。

住宅着工数の減少により住宅サッシ需要の減少が予想されたため、建材以外の分野にも挑戦しようと2020年に立ち上げました。樹脂の押出成形は各社それぞれノウハウがあり、技術を公表している会社はほとんどありませんが、木目・石目調などの特徴的な押出成形材や、コストダウンの事例など、当社の強みを紹介しています。当社では様々な形状に対応する金型設計から、成形、加工、検査と一貫生産をしており、各種用途に品質・コストの両面から対応しています。

技術に対する自信がうかがえます。

材料のリサイクルにも力を入れており、不良品や納入先で加工時に出た端材などを回収し、自社で色別にしてペレットにリサイクルしています。以前は専門業者に引き取ってもらっていましたが、私が工程技術課にいた時に設備を導入し、資源の有効活用をはかっています。

自由闊達に多能工化はかる

技能伝承やスキルアップはどのようにされていますか。

樹脂の押出加工は機械任せにできない部分が多く、多色の製品を扱えるようになるまでには最低5年の経験が必要です。OJTを基本に、難易度の低い成形から徐々にレベルアップしていきます。

その上で、県プラスチック工業会の「押出成形検定」の受講・受験を社員に勧めています。厚生労働省の認定も受けている検定で、

実技だけでなく、材料や強度などに関する講義と試験もあり、それに向けた予備練習会や教育体制を整えています。会社全体の底上げや後継者の育成にもつながり、資格取得者にはライセンス手当を出しています。

幹部の養成はいかがですか。

三協立山グループのeラーニングを活用し、段階を踏んで学べるようになっています。課長代理まではみなさん順調に進むのですが、課長に昇級したいと思う社員が少ないのが悩みです。グループの研修などに参加する機会もあり、交流を通じて意識を高めて欲しいと思っています。

自由闊達な企業風土を大切にされているとのこと、社内の意思疎通はどのようにされていますか。

方針管理活動の実績報告会を毎月実施しており、以前は大会議室で行っていましたが、私が社長になってからは課ごとに行うようにしました。私も現場が長かったので、実績が出ている部署はどんどん伸ばすようにプッシュしますし、計画に対して遅れているところはどうすればやり遂げられるかを一緒に考えます。場合によっては他部署から応援に入ってもらうこともあります。多能工化をはかっており、先進的窓りノベ事業2023のあった時は土日も3交替でフル稼働し、間接部門や課長も現場に入

って製造しました。

安全健康経営宣言をうたっておられます。

方針管理活動以外に、毎月開く安全衛生委員会で、昨年からは健康への取り組みを取り入れました。安全衛生のほかに、ビデオ映像などでメンタルヘルスのことや、夏場であれば熱中症や食中毒への注意喚起などを行い、各部署に持ち帰ってもらっています。

昨年「とやま健康企業宣言」の銀(Step1)の認定を受け、今年は金(Step2)認定に向けて、総務課の女性スタッフを中心に取り組んでいるところです。

QC活動でノウハウ継承も一世の中では人手不足が叫ばれています。

人口減少の中、人材の獲得も難しくなっていますが、先日、QCサークル活動の発表で、総務部門が退職するベテラン社員の仕事をテーマにして「多能工への取り組み」を発表してくれました。半年にわたってベテラン社員がリーダーとなり、作業を指導しながら仕事のノウハウを共有しました。

職人気質で口数が少なく自分の仕事をきちんとやりぬく社員が多いのですが、その上でさらに個々のスキルを上げながら技術の継承ができたことで、多能工化につながり、仕事を分担できるようにな

ったとの声が聞かれました。

QCサークルは社内に11サークルあります。福岡町工場協会の発表会に毎年参加し、2023年には全国大会で石川馨賞奨励賞を受賞しました。

これまでの改善活動は、生産性を上げることに目を向け、生産計画や品質の向上につながっていますが、人材確保が難しくなりつつある今、デジタル技術による自動化や社員の健康増進などに取り組みながら、今回の総務部門の発表は、人材育成の新たな一歩になる取り組みだと感じています。**今後の展望をお聞かせください。**

三協アルミから8月に発売される高断熱スリム窓「エスティナ」の成形材を一手に引き受けています。

また、新たな可能性として、塩化ビニール以外の樹脂を用いた押出成形で、様々な企業の課題解決に取り組もうと考えています。その第一弾としてPET樹脂を用いた押出加工で試作品を作っているところです。

座右の銘を教えてください。

「失敗を恐れるな、挑戦しないことを恐れよ」です。私自身もそうですが、社員にも挑戦する姿勢を支援して、失敗も次の学びに生かせる会社にしていきたいと考えています。

会社概要

三協化成株式会社

創業：1975(昭和50)年3月
所在地：高岡市福岡町下向田3-1
資本金：1億円
事業内容：建築用各種ガスケット・硬軟異形押出成形品・射出成形品の製造、研究開発の受託業務
従業員数：89名(2025年6月現在)
売上高：約20億円(2024年5月期)
関連会社：三協立山株式会社
URL：<https://www.sankyokasei.jp>



略歴

1965年高岡市生まれ。1986年富山職業訓練短大金属成形科卒業後、三協化成(株)入社。品質保証課、工程技術課長、樹脂サッシ加工課長などを経て、2017年取締役、2023年4月から代表取締役社長。